

磐梯山の火山活動解説資料（令和4年1月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①）

剣ヶ峰監視カメラによる観測では、山体北側火口壁の噴気の高さは80m以下で経過しました。今期間、噴気活動に特段の変化はみられず低調に経過しました。

・地震や微動の発生状況（図2-②～⑦、図3）

今期間、山頂付近の深さ1kmから2km付近を震源とする火山性地震が一時的に増加し、23日に40回、30日に21回観測しましたが、その他の観測データに変化はみられず、火山活動の活発化は認められませんでした。磐梯山では、これまででも山頂付近で一時的な地震回数の増加がみられており、2020年2月12日には48回観測されています。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図2-⑧、図4、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1 磐梯山 山体北側火口壁の噴気の状況（1月26日）

・剣ヶ峰監視カメラ（山頂の北約7km）の映像です。

噴気の高さは80m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_vact_doc/monthly_vact.php）で閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和4年2月分）は令和4年3月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokujii.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

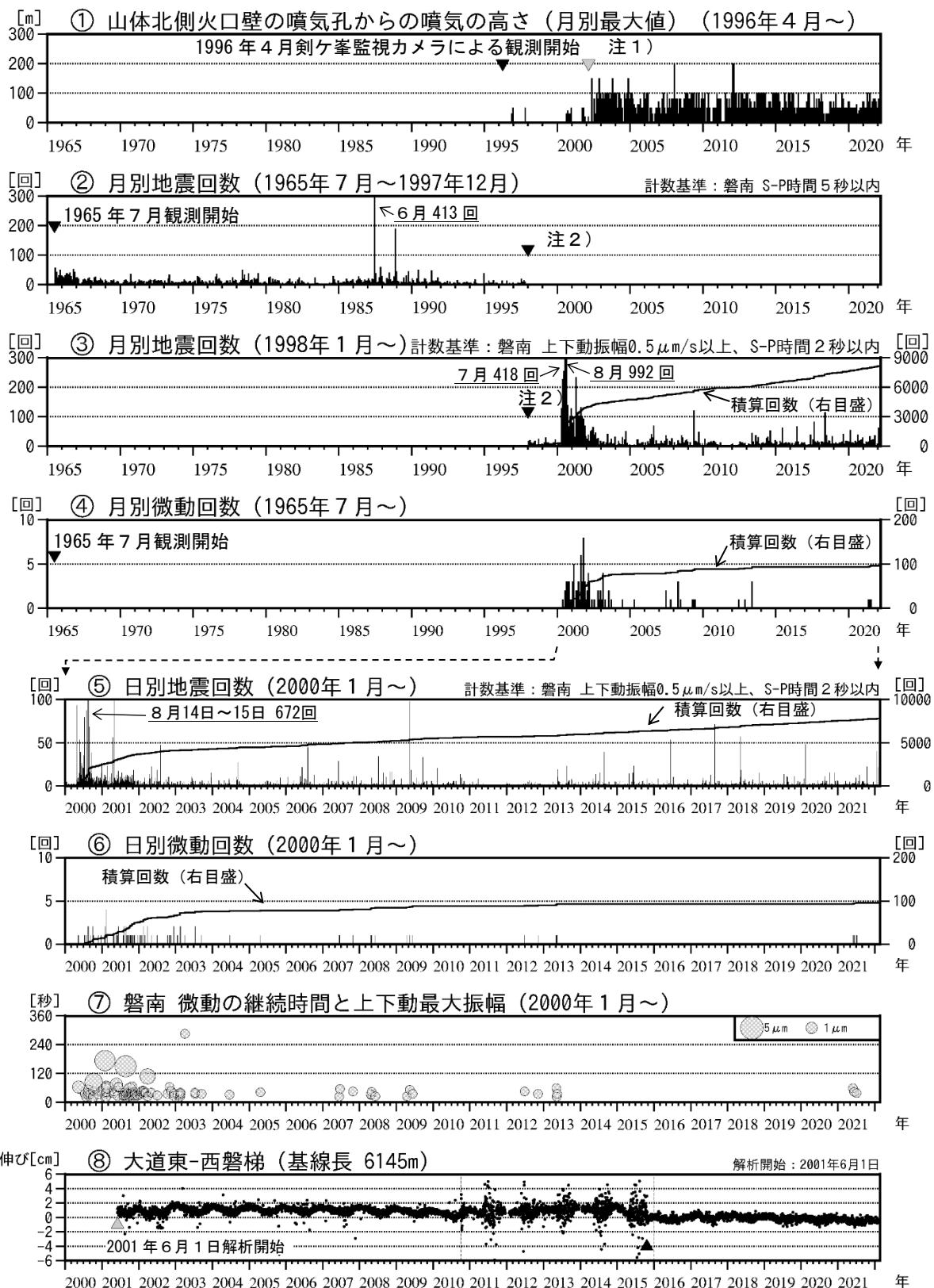
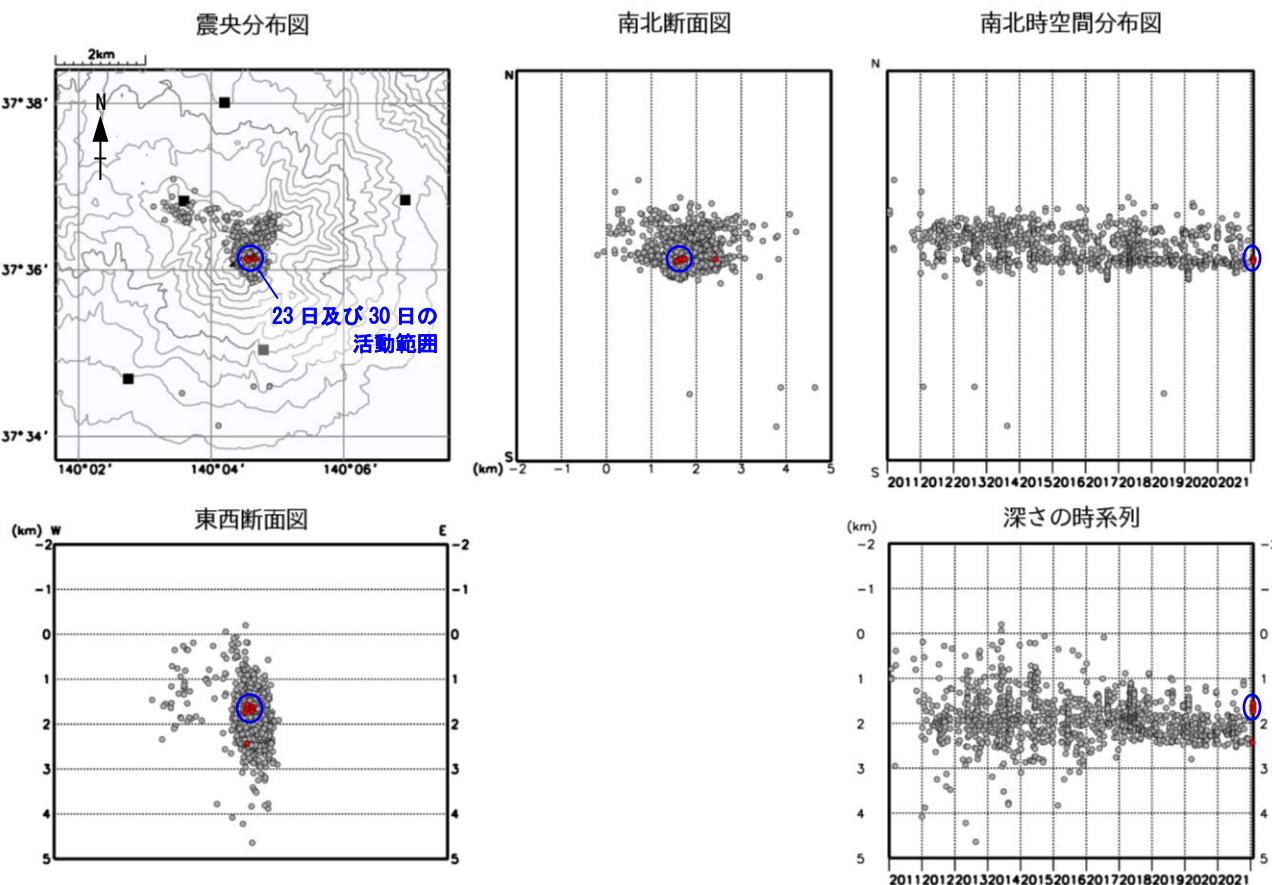


図2 磐梯山 火山活動経過図（1965年7月～2022年1月）

- ⑧は図6のGNSS基線⑥に対応しています。
- 2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています（⑧）。
- 注1) 2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。
- 注2) 1998年より計数基準をS-P時間5秒以内からS-P時間2秒以内に変更しました。
- ▲：大道東観測点及び西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました（⑧）。

23日及び30日に山頂付近の火山性地震が一時的に増加しましたが、その他の観測データに特段の変化はみられず、火山活動の活発化は認められませんでした。



● : 2022年1月1日～1月31日 ● : 2011年1月1日～2021年12月31日 ■ : 地震観測点位置

図3 磐梯山 震源分布図（2011年1月～2022年1月）

・23日及び30日の地震活動の活動範囲は、山頂付近の深さ1kmから2km付近（青丸）と推定されます。

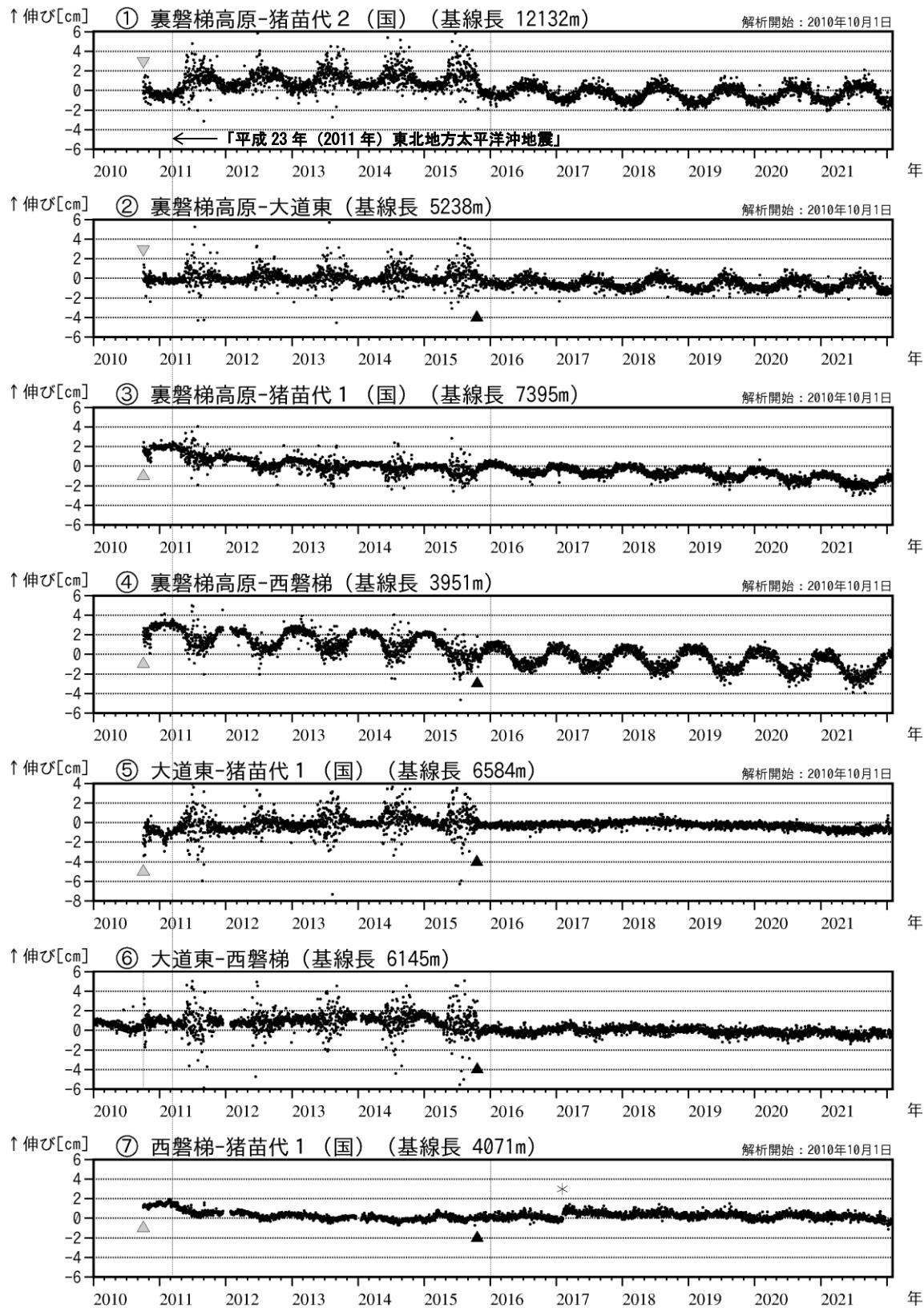


図4 磐梯山 GNSS 基線長変化図（2010年1月～2022年1月）

- ・2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています。
- ・「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～⑦は図6のGNSS基線①～⑦に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- ▲: 大道東観測点及び西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました。
- ▼▲: 解析開始を示します。
- *: 西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

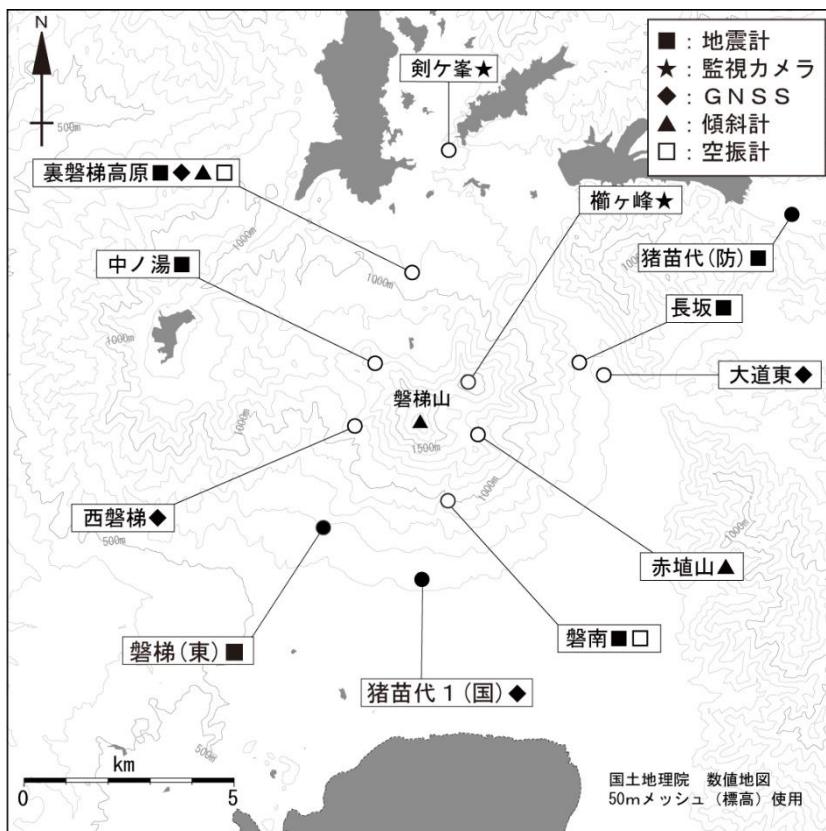


図5 磐梯山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院 (東) : 東北大学 (防) : 防災科学技術研究所

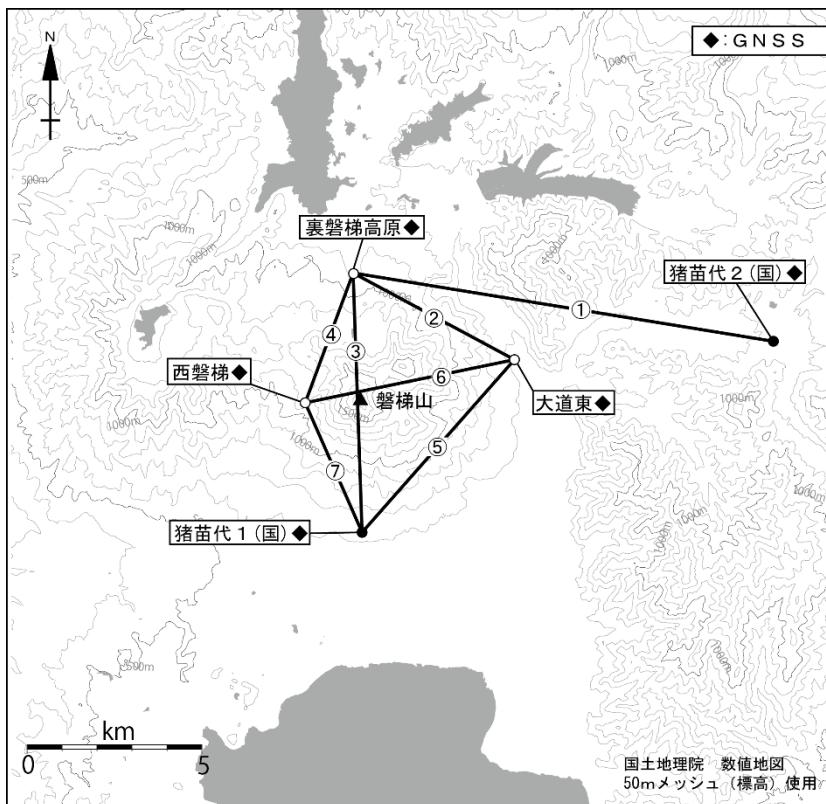


図6 磐梯山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院